

名古屋シティーマラソンに出場



3月13日(日)に名古屋シティーマラソンが開催され、森社長、牧野さん、安井さんが出場し見事完走しました！おめでとうございます！！興味がある人は来年エントリーしてみたいかがでしょうか。 近藤 怜

ゴールから設定する

社長 森 直樹



最近気になった本の中でのなるほどと思ったのは10年先の目標を決めるというものでした。そこから中期目標、短期の目標を設定することで今やるべきことが明確になるということです。長期の目標を決めた上で行動するのと、最終的な目標を持たずに手前から積み上げていくのでは、積み上げている日々の取り組み方もまた違ってくるのではないのでしょうか。

私自身経験上、事の大小に関わらず、自分の理想とする状態を形だけでも先に作ってしまうことで、逆にそれに近づけるように努力せざるを得ないということが自分を動かす上で一番早いと思います。

身近な例でいうと、中古の本を買い取る店舗「ブックオフ」は、ネットで申し込むと運送会社が引き取りに来てくれます。ただし最低20冊売らなければならないと引き取りが成立しません。自分で20冊の処分したい本を選ぼうとしても、なかなか決めきれない時があり、なかなか申し込みを出せない。そこで解決策としてまず「ネットでの引取申し込み」を20冊選定開始する前に済ませます。そして発送用の箱を用意し、それから本を選定していく。こうすることで最終期限が明確になり、期限を決めてしまうことで自動的にいつやらねばならないかが明確になります。また机の上の片付けにしても、一つ一つ整理していこうとすると、分類に困るような物が滞留してなかなか片付けが進まないということがあります。そのような場合あらかじめ別の場所やダンボール箱に机の上のものを全て移し、そこから整理をしていくことで、片付いた状態を先に作ってしまうことでそこに近い状態を維持しようとする前向きな動機付けができます。そう書いてある自分自身も、この波紋原稿が遅れることがあり(編集部の方からごめんなどい)これを期に、締め切り前に提出する習慣をつけるにはどうすればよいか。まず自分で締め切りを前倒しにして片付けることを良い習慣に出来ればと思います。

ランニングシューズⅡ

牧野 光昌 (企画営業部)



先月号の安井さんの記事に刺激されて『アシックスNEW YORK』を私も購入しました。安井さんが「NEW YORK III」でしたので私は「NEW YORK IV」にしました。もちろん名古屋シテイマラソンに備えてです。年齢的な事、練習不足的な事、毎年増加していく体重的事、全部ひっくるめたマイナス要因たちを、ランニングシューズにすべて御任せしてしまおうという浅はかな考えからです。

名古屋シテイマラソンに参加し始めて今年で10年目です。途中、当初の11月から現在の3月に開催日を変更する為に2年間の中断があった事とエントリ後の参加者抽選で外れた事が1度ありましたが、実際レースに参加したのは7回目ですが、回数を重ねるごとに準備不足で当日を向える事が多くなり、走りながら苦しみ、もがいていたのです。今年も同様な状況で走る事になりつつありました。そして開催日の1ヶ月前になってから慌てて安井さんの情報に飛びつき購入したのです。直前の練習でもクッション性の良さを感じられる事は出来たのですが、安井さんの言うほど、「すげえ〜！」という感動までありませんでした。今思えば、練習不足でそれすら感じられないレベルだったのが真実でしょう。そして当日名古屋ドームの駐車場を埋め尽くした21000名の女子のフルマラソンのスタートする姿を見ながら、自分たちのスタートの時を待ちました。その1時間後にハーフトクオーターとが同時に総勢15000名でスタートをきりました。今年の天候は絶好のマラソン日和。頼みのランニングシューズのクッション性は、練習不足の私の足腰の疲労を充分軽減してくれている事を、本番でやっと実感が出来ました。ここ数年は無理のない走りをする事を心掛けていましたが、それ以上に無理のない状態でレースが出来た事に『日本のシューズはすごい！』と心から感動しました。そんな私に8km地点くらい所で後ろから声をかける人が居ました。それは私よりも300mほど後からスタートしたはずの安井さんでした。「お先です。」と言って走り去った後ろ姿に私の感動は消えました。そして翌日、膝や腰の痛みは無く、少々の筋肉痛で済んでいる状態に感動がよみがえりました。

宇宙

加藤 雅昭 (営業部)



宇宙、それは人類に残された最後の開拓地(フロンティア)である・・・これはよく知られたスタートレックのオープニングのアナウンスです。昔いんなSFをよく見ていました。タイムトンネル・宇宙家族ロビンソン・スタートレック等々なじみのない、いろいろな言葉が出てきてわからない、インターネットがない時代、百科事典やいろいろな書籍をよく読みました。星が好きで小学校2年生のときに父に屈折100口径の天体望遠鏡を買ってもらい、いろいろと見ました。きつと星雲とかがはつきり見えるのかと思つたら土星のリングがあることと木星の縞模様が見えた程度のものでした。もつともつと遠くまで見えるかとおもっていたのに。小学校高学年から中学時代の購読書は天ガ(天文ガイド)、今思うと完全に妄想族になっていました。わからないなりに一般相対性理論・特殊相対性理論の本を読み空想にふけていたあの頃が懐かしく思います。近年ニュートリノに質量があることが発見されたり、重力波が実験によって実証されたりしている。おおく昔読んでいたことが確認されてきている!!私が生きている間にどこまでのことが解明されていくのだろう。宇宙の起原は、ビッグバン以前の宇宙とは??宇宙に端はあるのか?大体この宇宙とはなんなのか?今はインターネットでいろいろなことが調べられる時代です。ホーキング博士やハルスにテイラー、アイシユタインの理論等が調べられ、いろんな方の論文も読めます。ブラックホールなどの脱出速度が光速を越えただけの重力星ではなくワームホールの入り口ではどの仮説もあり、その出口はホワイトホール?この年になって、このような記事を読んでいるとわくわくしてしまう。タイムマシンが無理なら光速に近い速度の乗り物にのり、時間のスピードを変えて未来にいけない(正確には流れる時間を変えて長生きする)だろうか?アイシユタインの理論によると光速に近いスピードで動くものにつけると時間の流れが遅くなるとされている。光速をいかなるものも越えられない。それは光には質量がないため。質量を必要とする乗り物ではそれを越えられない。きつと近い将来誰かがこのアイシユタインの理論を論破し、時間を、空間を越えられないだろうか。それまで生きて宇宙を知りたい・・・は無理かな。

有馬記念

松井 宣和 (森松産業)



2015年の年末に千葉県船橋市にある中山競馬場へ新東名を使い4時間かけて行ってきました。午前1時ごろ到着して駐車場(複数あります)はすでに4分の1ぐらいの入り具合でした。この日の自分のミッションは2つありました。まず有馬記念レースの勝ち馬の馬券を取ることはもちろん、次に開門ダッシュを成功すること。開門ダッシュとは競馬場が開門と同時に自由席スタンドを指して猛ダッシュでかけて座席を確保することです。スタンド自由席での生で有馬記念をレース観戦がしたかったのですが、もうこの時点で黄色信号……!赤信号かも? ネットやお友達情報を聞いていた私ですが、すごい人だからで主に2ヶ所ある入口には長蛇の列になっていました。寒い中、カイロを身体中に貼り付け寝袋持参で並び始め夜食を食べ尽くすと特にすることがないので何人ぐらいかなーと思いついてみえました。60人ぐらいのスペースでこれが10ヶで更に2列肉眼で見える範囲で1500人ぐらい、更にその向こう奥にも並んでいる様子で、

どんだけ……!

他の競馬場でも開門ダッシュ成功経験がありますが有馬記念は別格で難易度が高いです。競馬を知らない人でも、有馬記念だけは馬券を買う人いますもんネ!

レース直前は入場者数12万人ちよつとでした。メインスタンド前はすし詰め状態でもし倒れでもしたら生命の危険を感じます。倒れたくても倒れられないほどで、肺が潰れそうでした。結局観戦できたのは負けたゴールドシップの後塵を拝したお尻が一瞬見えました。

最高です。どえりやあいい経験をしました。また今年チャレンジ……???

不自由も悪くない

大石 耕平 (東京オフィス)



便利で素晴らしい世の中が、数多大勢の首を締め付けている。窮屈で、息苦しくて、窒息死しそうにも見える時がある。吐き出した言葉はあつという間に国会まで届き、切り取った写真には光の速さで貼りつけられ、泥酔して僅かでも人の道を外れればカメラの大群によってデジタルデータ化され晒される、ネットで買物すればその日のうちにモノが飛んでくる。この素晴らしい仕組みを構成する要素は、大概に非人間的で、かつては楽しんでた不自由を窮屈で退屈なものに、許せていたものを許せないものになってきている様に感じる。「どうすれば相手に言葉を届けられるのだろう?」という悩みは、確実に届いてしまう仕組みによって相手の反応を監視する待機に変わってしまった。ラブレターを投函後「やっぱり辞めた!」と集荷に来る郵便局員を待ったあの日はもう味わうことはできないだろう。いつからだろう?女の子たちが携帯電話水没を音信不通の理由に挙げなくなったのは。結論を急ぐ気持ちは今も昔も等しく変わらないが、性急になりすぎてやしないか。「私のメッセージは届いているのになぜ無視されているのだろう?」「なぜ思ったとおりの反応が得られないのだろうか?」届きすぎてしまう言葉は、相手への思いやりや尊敬の念を忘れさせ、エゴを増幅させ、イジメ自殺やストーカー殺人といった悲劇を生み出している。「切った」「切られた」と人間関係がインスタントになってしまった。しかし考えてみれば家族でも恋人でも友人でも同僚でも、他人に言葉を伝えられる関係になること自体が素晴らしい、価値のあることなのだと思う。たとえそれがインスタントに築き上げられたものであつたとしても。

勘違いしてしまいがちだが簡単に言葉を届けられるようになったからといって、その関係自体が簡単なものになったわけではないのだ。便利になりすぎることは、時に窮屈で余裕がなく、仕組みに支配されているように私には思える。

過去に時間を巻き戻すことは出来ないけれど、私はラブレターを出す前の不安と期待が混じり合ったあの気持ちやその後訪れる焦燥、嫌悪、挫折、ひとすじにいかない不自由を忘れずにいたい。そのかわりと言っては何だが、不自由すぎる私のオフのライフワークが時々自由になればいいのにと思っているだけでも、そうはうまくいかないのが人生。

4月の予定

2日(土) 第1土曜日休み

7日(木) 橋野徳明さん誕生日

9日(土) 第2土曜日休み

14日(木) 伊東郁二さん誕生日

16日(土) 第3土曜日休み

17日(日) 三輪りつ子さん誕生日

22日(金) CS会議 14時10分～15時

29日(金) 生産会議 12時00分～

30日(土) 昭和の日

4月 29日 第5土曜日休み

5月 8日

ゴールデンウィーク休業期間

森松株式会社のオリジナルキャラクター
守り隊の『マモーリン』誕生しました!



このたびLINEスタンプデビュー☆
全40種類100円で販売しています!
いますぐクリックしてね!



No: 370 平成28年3月28日

編集者

大石耕平 小坂美香 小原龍一
伊東義弥 柳原瞬 近藤伶
橋野徳明 稲葉善貴 間部将大

侍ジャパン

河野 光代 (特販部)



3月5日にナゴヤドームで、日本対台湾の強化試合があり、招待券をいただいたので、主人と観戦してきました。昨年十一月にプレミア12が台湾と日本で開催され、夢中になってテレビ観戦しましたが、日本が韓国に大逆転されて3位になり、悔しい思いをしました。その侍ジャパンが、ナゴヤドームで台湾相手に試合をするのを間近に見れるとあって、主人も私もテンション高めで球場に向かいました。人気の侍ジャパンだけあって、会場はほぼ満席! 私たちは内野の自由席で、三塁側の前から6列目に席を確保できました。あちらこちらに望遠レンズを持ったカメラ女子もいました。日本を代表するトップの選手たちに、練習中のキャッチボールから目が釘づけでした。私の好みのイケメンの大谷選手は不在でしたが、今を時めく中田選手、トリプルスリーの山田選手、憎きジャイアンツの坂本選手、菅野投手、我がドラゴンズの平田選手、大野投手。さすがにどの選手も体格が抜群で、きらきら光っていました! 始球式は、星野監督がドラゴンズを優勝に導いた時代の守護神、郭源治投手でした。私も若かりし頃、会社の先輩とよく応援に行きました。超絶盛り上がりの中、試合が始まりました。侍ジャパンは、2回に先取点を取り、順調に点数を重ねていきました。その後、平田のタイムリーもあり、大野投手の登場で、大盛り上がりでした。試合を和ませられるドアラのバク転も決まり、いい調子です。結局、5対0で台湾チームには1点も与えず、勝ちました! とっても気持ちのいい試合でした。

来年の3月に、WBC(ワールドベースボールクラシック)があるので、ぜひ優勝してほしいです! その前に、我がドラゴンズのAクラス入りを願いますが、今年はどうでしょう? ドラゴンズファンのみなさん、一緒にナゴヤドームに行つて応援しましょう!

